

さくらそう通信



雨二モマケズ…概要説明を聞く参加者

見学路をまわりながら、解説に聞き入る



田島ヶ原サクラソウ自生地開花期見学会

紙面でもその都度ご報告してきましたが、田島ヶ原サクラソウ自生地の保護保存に関する情報を発信する企画として、市教育委員会では平成11年度と12年度に「サクラソウ会議」を開催しました。2回の「会議」では新しい研究・調査の成果などが報告され、会議後に回収された参加者アンケートでも「今まで知らなかったことが多く、大変興味深い内容だった」など、おおむね好評をいただいています。しかし、「サクラソウの咲いている自生地を訪ね、田島ヶ原の現状を見てみたい」という意見も多く、発表者からも同様の企画の提案が事務局に寄せられていました。

市教育委員会ではこうした要望に応えるため、「サクラソウ会議」のひとつの発展形として、13年4月19日に「開花期自生地見学会」を実施しました。見学会当日は、本紙にも度々ご寄稿いただき、「サクラソウ会議」でもおなじみの磯田洋二氏（浦和市文化財保護審議会委員—当時）に解説をお願いしました。

田島ヶ原は、かつては荒川河川敷のそこそこに広がっていたサクラソウ自生地の貴重な生き残りです。また、そこ

に生育する植物は、サクラソウよりも希少とされるものも含めて250種を超えています。近年、そうした植物（もちろん動物も）の生命を支える力を、田島ヶ原の環境は失いつつあるのではないかと懸念する声が多く聞かれます。「サクラソウ会議」の趣旨も、そうした声に応じて、田島ヶ原の環境の保全とサクラソウをはじめとする動植物の保護保存を考えていこうというものでした。

今回の日程は、サクラソウの花を見るには若干早かったかも知れませんが、参加者の多くにとって、自生地とその周辺に生きる種々の草木に目を向け、田島ヶ原を護ることの意味について認識を新たにするには、最適なタイミングだったのではないのでしょうか。

サクラソウの自生地を尋ねて

磯田 洋二

1. 軽井沢のサクラソウ自生地

長野県の軽井沢町ではサクラソウを町の花にしています。私が大学生であった昭和30年（1955年）頃のこと、上野駅から23時55分発の夜行列車に乗って軽井沢駅まで行



- ① 野生種のサクラソウの植え込み (軽井沢植物園, 2000.5.26)
- ② 園芸品種のサクラソウの植え込み (軽井沢植物園, 2000.5.26)
- ③ 多彩な花のクリンソウの植え込み (軽井沢植物園, 2000.5.26)
- ④ サクラソウ自生地に立つ町花を告げるプレート (軽井沢植物園, 2000.5.26)
- ⑤ 斜面に広がるサクラソウ自生地 (軽井沢植物園, 2000.5.26)

き、そこで草軽電鉄（廃線になって現在はない）の始発に乗り換えて、当時の鉄道最高所駅であった国境平駅で下車し、浅間高原を散策して沓掛駅（中軽井沢駅）にたどりついて帰るといふ、夜行日帰りの旅を幾度となく楽しんでいました。そして、時間があれば沓掛駅の南にある塩沢湖まで足をのばし、5月下旬から6月上旬にかけて付近一帯がサクラソウの花で埋まるのを見て帰りました。軽井沢に見事なサクラソウ自生地があることは、当時の雑誌「遺伝」に紹介されていたので知っていたからです。

その頃から45年もたった平成12年5月26日（2000年）

に、サクラソウの訪花昆虫（花の蜜を求めて集まる昆虫）を調査するために、軽井沢町のサクラソウ自生地を訪れました。目的地は「軽井沢町立植物園」の中に、当時のままの姿で残されているというサクラソウ自生地です。途中の車窓から眺めると、かつてサクラソウの群落が一面に見られた塩沢湖の付近には、テニスコートなどの運動場、公園、家屋ができていて、塩沢湖がなければここがどこなのかわからないほど変わってしまい、昔の面影は残っていませんでした。

植物園には町の花がサクラソウということもあって、サクラソウとクリンソウの野生種や園芸品種がたくさん植えられていました。園長さんの話では園芸品種の多くは「埼玉さくらそう会」から贈られたものということでした。

（写真①、②、③）

園内をめぐる、南東の一角に高さ約4mほどの高台があり、その斜面の下に「町花・サクラソウ・平成5年8月1日制定」と書かれたプレートが立てられていて、斜面には目的のサクラソウ自生地が広がっていました。（写真④）

サクラソウ自生地のある斜面は緩やかな西斜面で、そこにはミズナラの疎林（木がまばらに生えている林）とクサソテツやサクラソウなどの草原が広がっていて、サクラソウは長さが約20m、幅が約6mの範囲に群生していました。斜面の下は沼地で、沼地に沿って観察路とキハダの並木があり、並木は斜面に当たる西日を遮っているようでした。訪れた時には、斜面のサクラソウ、沼地のリュウキンカ、観察路の緑のクリンソウのそれぞれの花が満開だったので、この辺りは大変に美しく見えました。（写真⑤、⑥）（図1）

ここで、軽井沢のサクラソウ自生地と田島ヶ原のサクラソウ自生地に生育している植物を調べて、表にして比べてみることにしましょう。（表1）

表を見ると、サクラソウの花は、軽井沢では田島ヶ原より1か月も遅れて咲くことや、サクラソウと一緒に生える植物の種類が、軽井沢では田島ヶ原の2倍もあり、しかも、サクラソウとスギナ他には共通する植物がないことに気づくことでしょう。

もう少し詳しく見てみましょう。表から夏に茂る植物をさがすと、軽井沢からはハナタデ・シラヤマギク・オオハンゴンソウ・カラマツソウ・ツリガネニンジン・ワレモコウが、田島ヶ原からはオギ・ヨシ・ヤブガラシが見つかります。このことから、夏のサクラソウ自生地は、軽井沢では明るい林間や森林の縁に見られる高茎植物の草原と同じになり、田島ヶ原では沼地や河川敷の湿地に見られる茅の草原になることがわかります。高茎植物とは茎が高くなる双子葉植物のことで、茅とはヨシ・オギ・ススキなどの大型になる単子葉植物のことですから、草原のようすは大変に異なっているのです。

また、帰化植物をさがすと、軽井沢からはヒメジョオン・オオハンゴンソウ・タチイヌノフグリ・コハコベの4種が見つかり、田島ヶ原からは見つかりません。軽井沢の